

## カフェテリアの机を変えることによる利用者の増加

C1222502 3年 小松杏南

現在の東北公益文科大学のカフェテリアは長机であり、一つのテーブルに八人ほどが座れるようになっている。テーブルが一つにまとまっている分、人数の多いグループが一緒にご飯を食べるときなど仲間外れがでにくい。また、テーブルが広いため広々と使用できる。実際に、私がいつも一緒にご飯を食べるグループの人数が六人のため、大きなテーブルでみんなと同じ話題を共有しやすい。

しかし、カフェテリアすべてのテーブルが長机のため、一人や二人など少人数で利用したい人にとっては広すぎると感じる。私の友人は、履修の関係でお昼ご飯の時にみんなで集まって食べられない場合は自分の車の中でご飯を食べている。その理由として、カフェテリアは一人で利用するには広く、一人だと他の人の視線が気になるからだと話していた。このことから、少人数で利用したい人にはカフェテリアは不向きだと考えられる。カフェテリア二階には一人や少人数用の席が設けられているが、大学生だと一人で行動している人も少なくないため、毎回の席の確保は難しい。また、一人で一階の長机を使用すると同じテーブルを知らない人と共有することになり、お互いのパーソナルスペースを確保するために何席か空けて座っている人もよく見かける。これによって、座るスペースがあるにも関わらず、隣に座りにくいという理由からカフェテリアを利用する人が減少してしまう。

今述べたのは、長機のメリットとデメリットであるが、メリットがある分、使用する人の需要もあり、カフェテリアに長机は必要だと考えられる。そこで私は、長机の数を減らし、四人用の正方形のテーブルや二人から三人用の小さい丸テーブル、ラームの仕切りがある一人で勉強できるスペースのようなコンパクトな机を新たにカフェテリアに設置することを提案する。これによって、少人数で利用したい人にもカフェテリアに足を運んでもらえることができ、同じテーブルに知らない人が座るということも起こりにくくなり友人との話に集中しやすくなると考えられる。一人で利用したい人は、わざわざ席を空け、無駄な席をつくりだすことが少なくなり、同じような席が近くにたくさんあるため周りの視線も気になりにくくなり、わざわざ席を空け、無駄な席をつくりだすことが少なくなるため、より多くの人にカフェテリアを利用してもらえる。また、今まで長机のみでシンプルな構造だったカフェテリアにテー

ブルや空きスペースの変化が加わることで視覚的にもにぎやかな場所を創り出すことができ、先程述べた通り、カフェテリアの利用者が増え、学外の人からもにぎやかで羨ましいと思ってもらえるカフェテリアになると考えられる。

(1098 字)